

2016年鹿児島医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科 手術統計

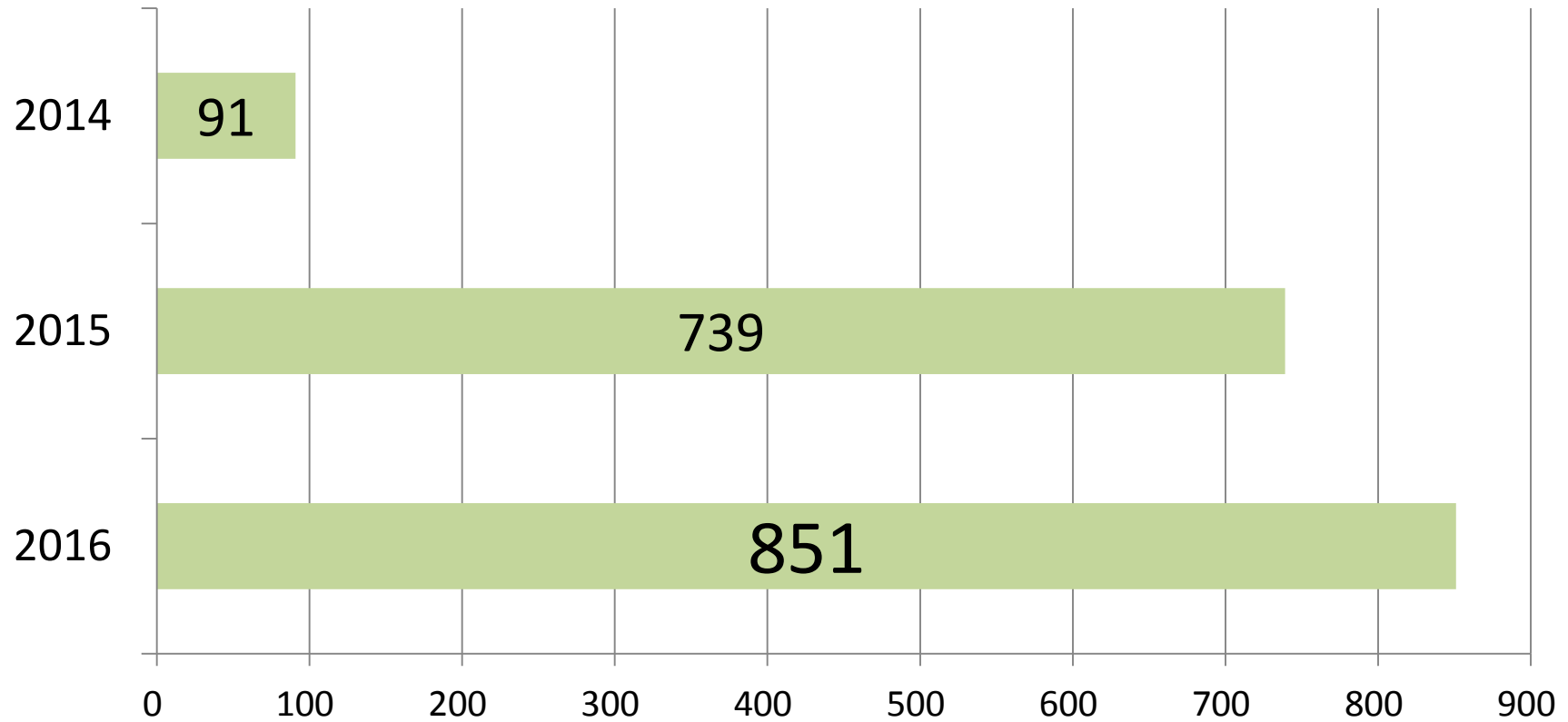


鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科 診療スケジュール

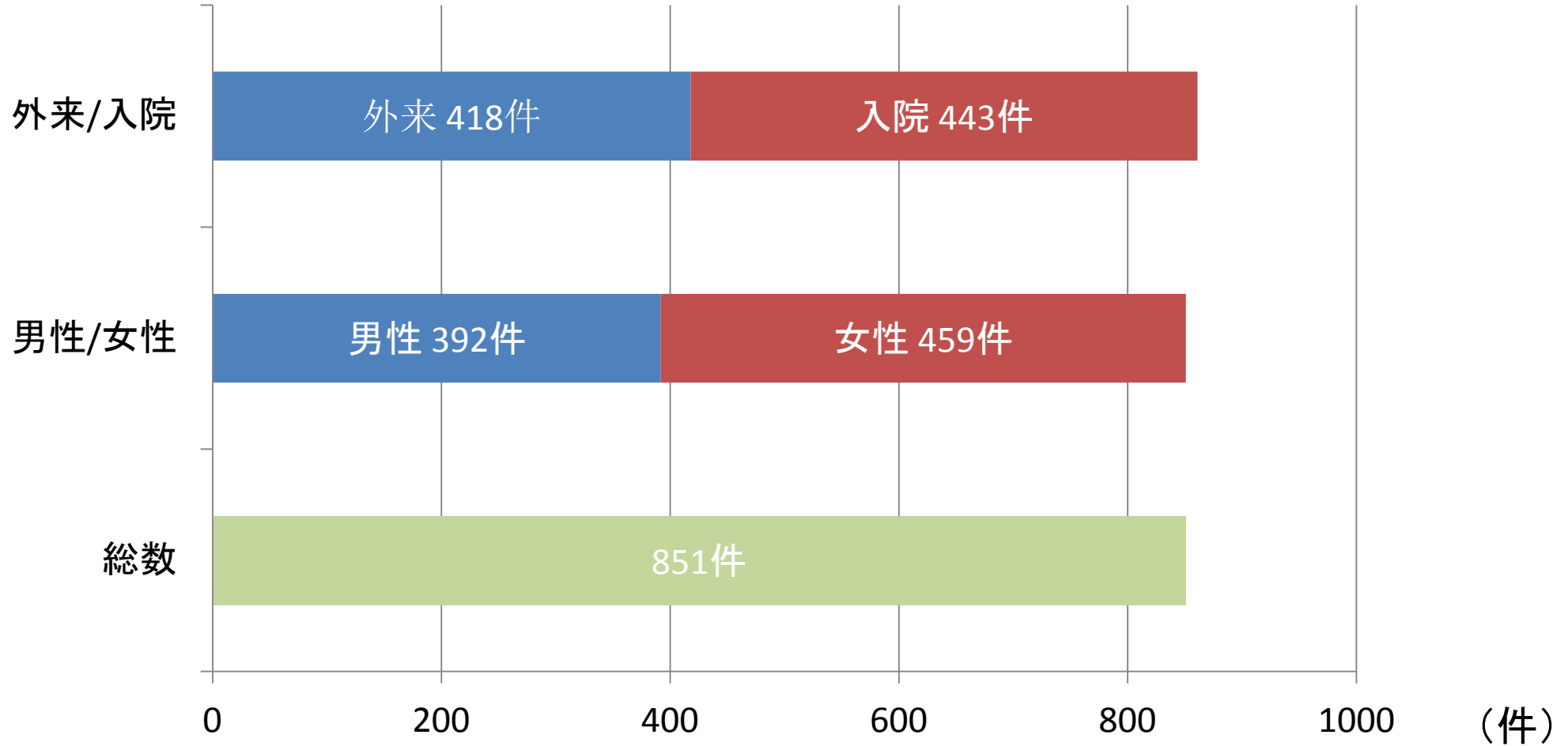
	月	火	水	木	金
午前	外来	入院手術	外来	入院手術	外来
午後	外来手術	入院手術	カンファ レンス	入院手術	外来手術



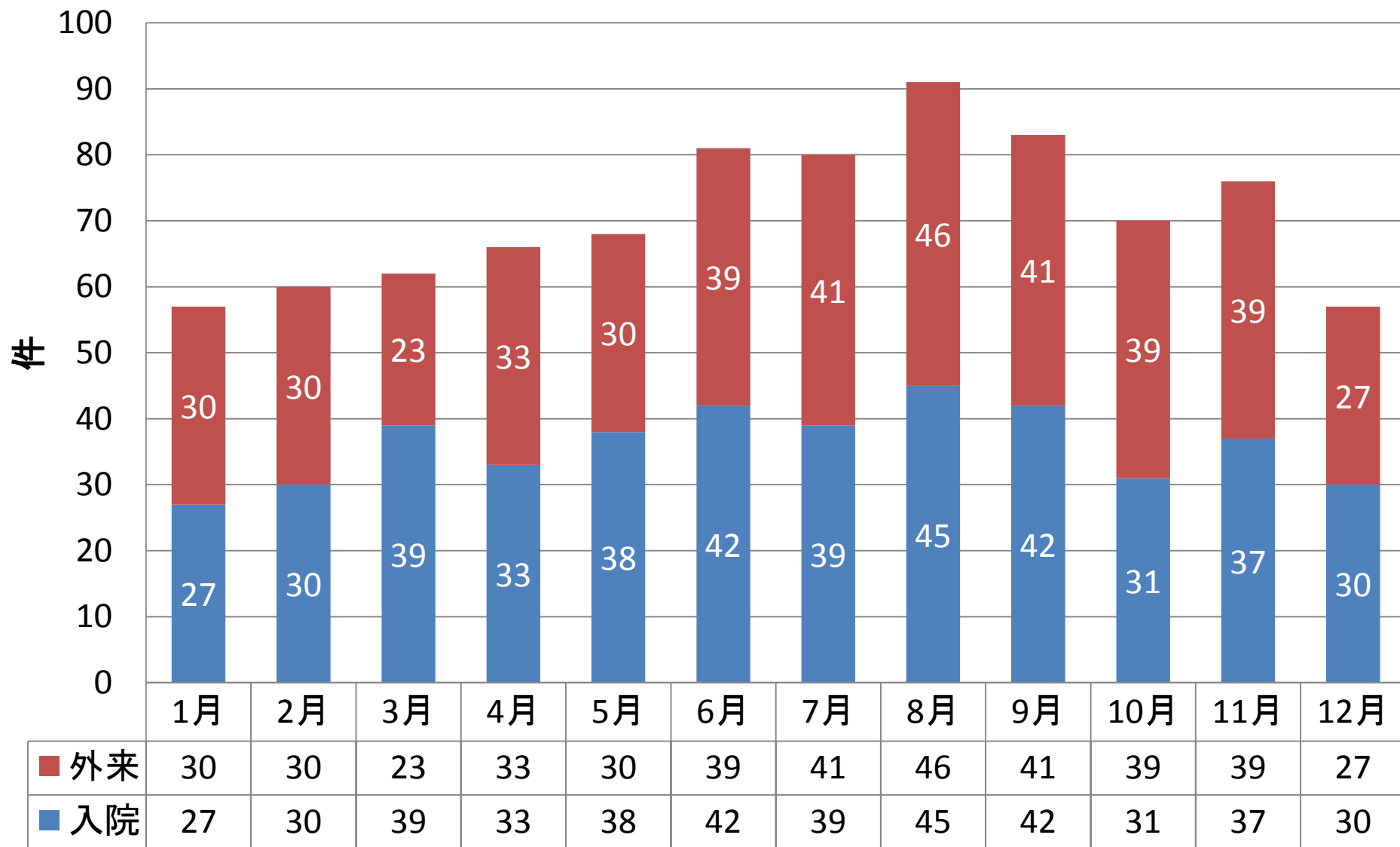
年別手術件数 (2014年10月～2016年12月)



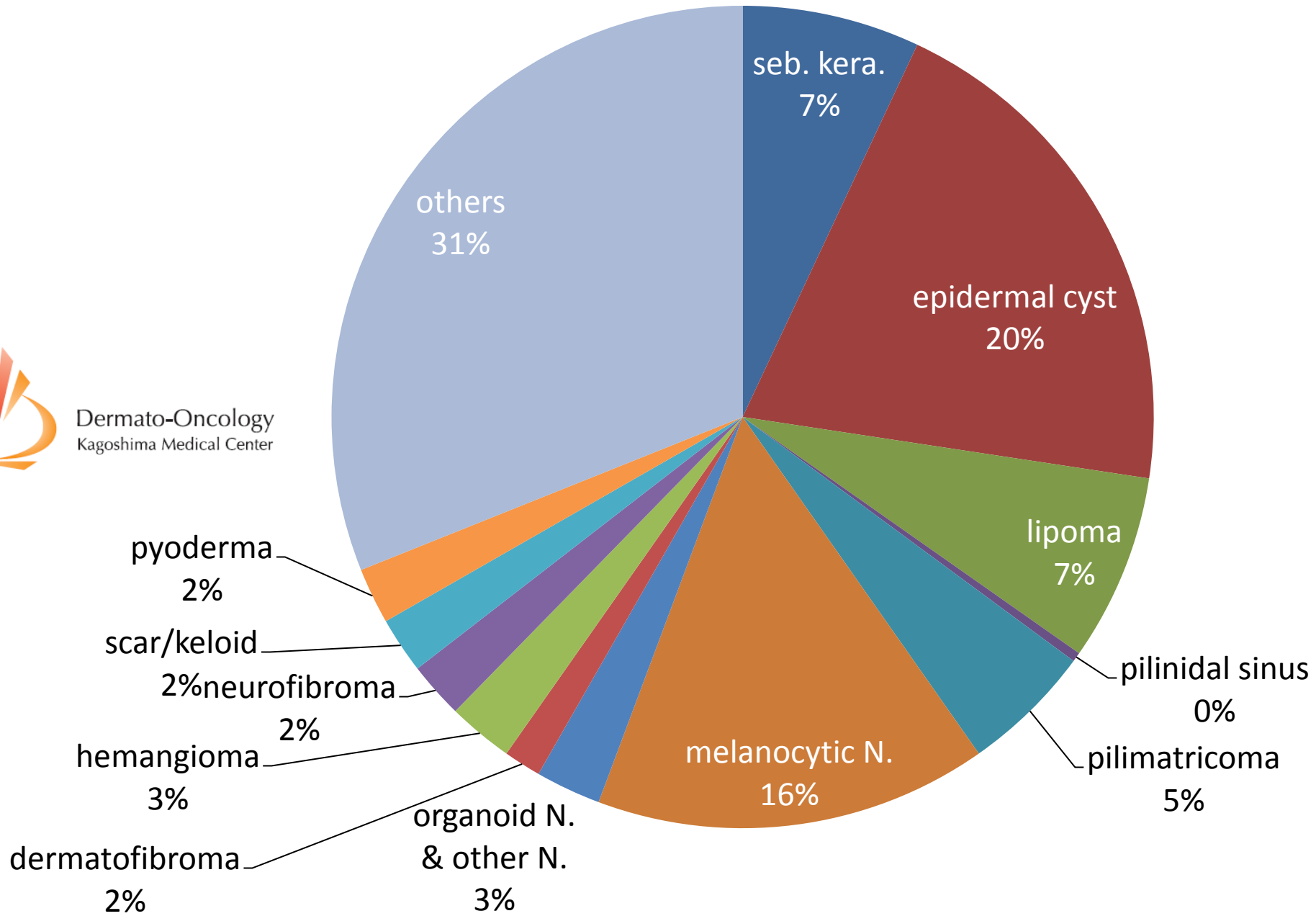
手術内訳



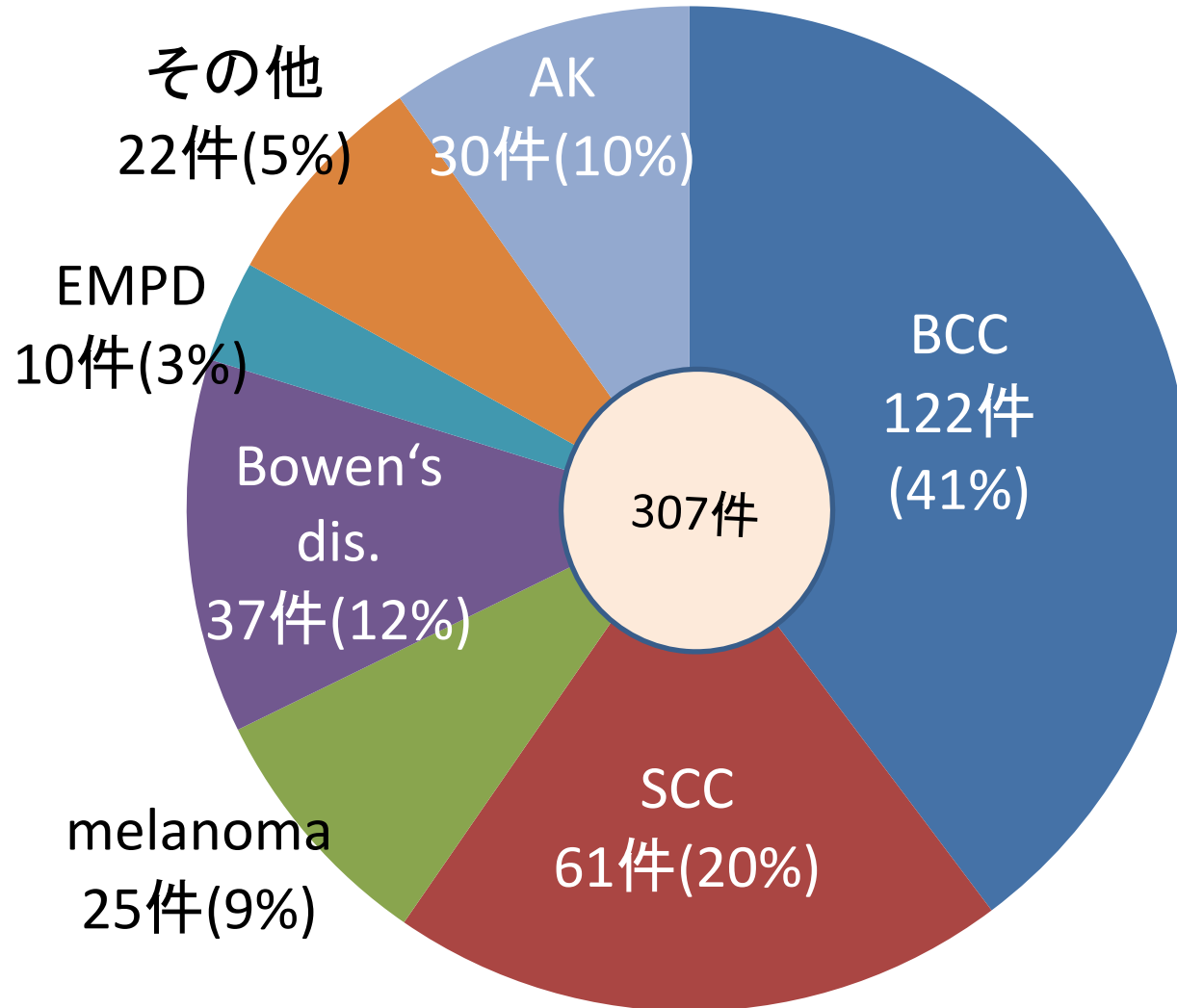
月別手術件数



疾患別手術割合(良性)



2016年疾患別手術割合(悪性)



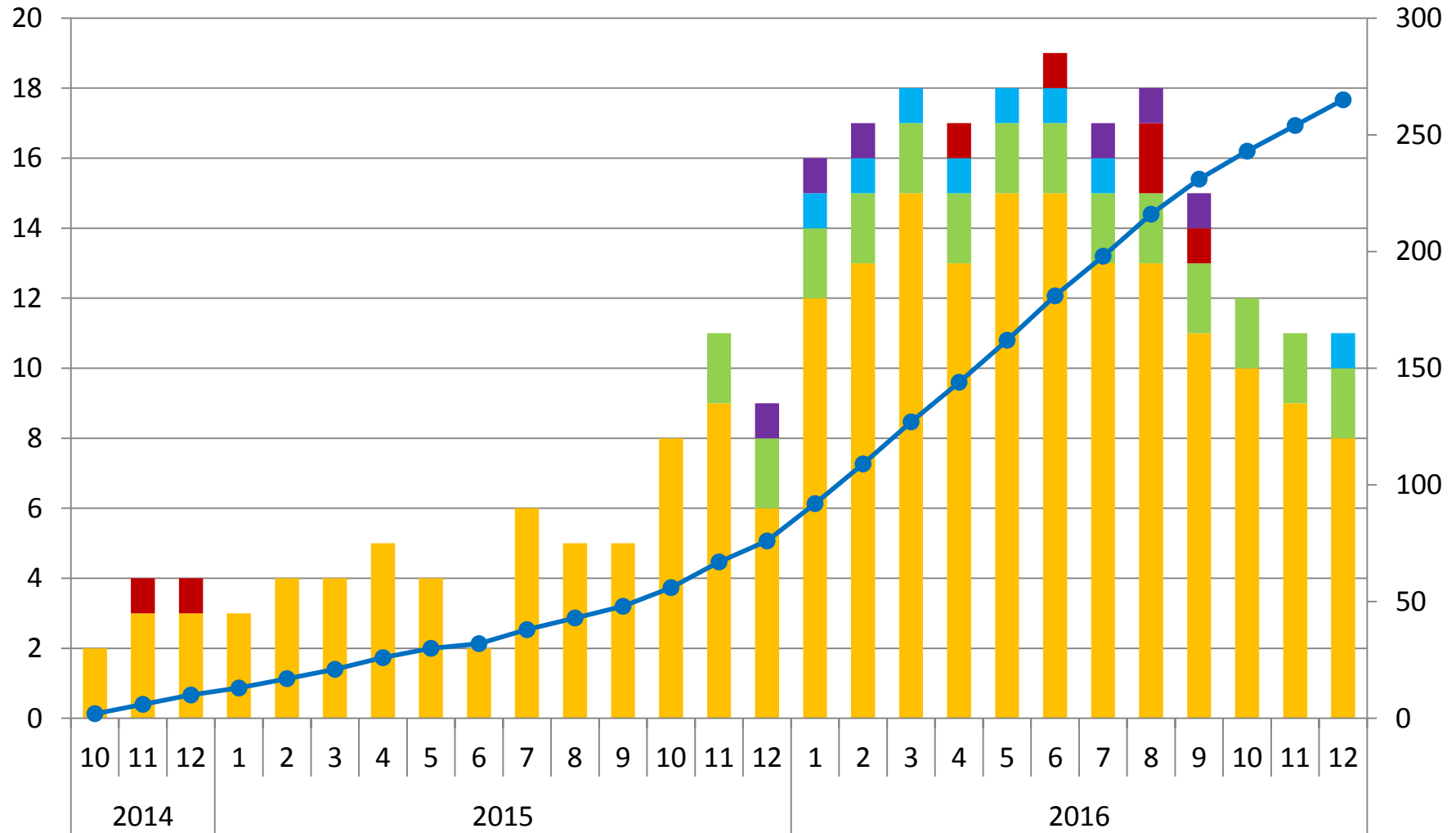
手術統計まとめ

2016年手術件数： 851件（前年比+112件）
悪性腫瘍： 307件（同+35件）
良性腫瘍ほか： 544件（同+77件）

鹿児島医療センター 皮膚腫瘍科・皮膚科 がん薬物療法統計



月別がん薬物療法件数



鹿児島医療センター
皮膚腫瘍科・皮膚科
初期臨床研修医教育への取り組み



初期研修医(卒後1～2年目)受け入れ人数

2015年1～12月

5名

(鹿児島大学初期研修医 3名)

2016年1～12月

9名

(鹿児島大学初期研修医 2名)

(南風病院初期研修医 1名)

2017年1～12月

(予定) **11**名

(鹿児島大学初期研修医 2名)



第1回 さつま皮膚外科塾を開催しました



去る8月1日(土)に、鹿児島医療センターで臨床研修を行っている研修医を対象に、さつま皮膚外科塾を開催いたしました。第1回となる本年は、「整容性に優れ、より痛みの少ない縫合手技」を身につけるため、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)との共催により、真皮縫合をテーマに行いました。

まず松下茂人(皮膚腫瘍科・皮膚科医長)の開会挨拶に続いて、真皮縫合の基礎やコツについての講義を行いました。動画を用いて実際の手指の動きを解説した後に、参加者全員が豚皮と4-0 PDS IIを使って真皮縫合の実習を行いました。創縁を外反させるためには縫合針をどこに刺入するか、縫合針の経路をどのように確認するかなど、講師が一人一人に指導しながら実習をすすめていきました。基本的な真皮縫合に慣れてきたら、鑷子だけでなくスキップックを用いて皮膚を把持するなど、より愛護的な縫合手技を学びました。参加された先生方は非常に集中されていて、あっという間に2時間が経過しました。最後は外科部長の弧方輝夫臨床研修管理委員長が開会の挨拶で締めくくりました。

第1回となった今回は12名の研修医に参加して頂きました。真皮縫合は簡単そうに見えて奥が深いものですが、このたびの皮膚外科塾が、研修医の皆さんの翌日からの診療に役立っていることを祈念します。最後に、今回無事に開催することができたのは、院内各部署および共催、後援各所のご協力の賜とっております。末筆ながらこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(文責:皮膚腫瘍科・皮膚科医師 青木 恵美)



2016年度 第2回 さつま皮膚外科塾を開催しました

皮膚腫瘍科・皮膚科では2015年から2回、鹿児島医療センターで臨床研修を行っている研修医を対象に、縫合手技を習得するための「さつま皮膚外科塾」を開催しています。2016年度からは今村病院分院の臨床研修医も加わり、第1回(2016年8月20日)では真皮縫合のコツについて講義と実習を行いました。そして去る2017年2月4日、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)との共催により、皮膚縫合(表皮縫合)をテーマとした「第2回さつま皮膚外科塾」を開催しました。

普段から行うこと多い「皮膚縫合」ですが、縫合痕をより目立たなくするためには基本に立ち返る必要があります。縫合針が円を描くように運針すると縫合痕が目立ちにくくなる理由はなにか、締め付けないけど緩まない結紮のコツはなにか、そもそも愛護的な操作とはなにか・・・など、単純だけど奥が深い項目を再確認するための講義を行いました。その後、豚皮を使って各自で手技を確認してもらいました。

次に、マットレス縫合、三点縫合、連続縫合など様々な縫合法について、それぞれの利点・欠点を説明しました。これらの中で、実臨床で応用しやすい垂直マットレス縫合と三点縫合を豚皮で実習しました。

最後に、応用編としてZ形成術を行いました。Z形成は、目立ってしまった傷跡を修復するのに有用な方法のひとつです。三点縫合や基本的な単結節縫合を駆使しながら、参加者全員がmultiple Z形成を完成させました。

2時間という短い時間でしたが、今回の実習が、今後の臨床に役立つことを願っています。そして今回も無事に開催することができたのは、院内外各部署および共催、後援各所のご協力の賜とっております。末筆ながらこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(文責:皮膚腫瘍科・皮膚科医師 青木 恵美)

